

第41回 2022年度《宮崎県》 助成先決まる

一般財団法人 みやぎん経済研究所 宮崎銀行ふるさと振興助成事業

— ごあいさつ —

一般財団法人 みやぎん経済研究所 理事長 杉田 浩二

宮崎銀行ふるさと振興助成事業の助成対象となられた皆さま、誠におめでとうございます。
宮崎銀行ふるさと振興助成事業は、株式会社宮崎銀行が創立50周年を記念して、地域産業の振興と発展に貢献することを目的に開始し、これまでに宮崎・鹿児島両県で累計361先に3億2,020万円の助成を行っております。今回の助成につきましても、皆さまの取り組みや研究が地域の発展に大きく貢献していくと確信しており、また皆さまの活動を一層飛躍させる一助になれば幸いです。
今後も本助成活動を通じ、地域の皆さまの活動・研究を支援していくとともに、助成先の皆さまの更なる発展を心より祈念いたします。

地方創生部門

特定非営利活動法人 ひむか維森の会

代表理事 松岡 明彦 宮崎市東大宮2丁目27番65号

事業内容 宮崎発木材伐採事業体ブランドの
全国展開事業

当法人は、森林の「誤伐・盗伐」などの被害防止や循環型社会を目的に、素材生産業への独自の自主規制ルール「伐採搬出ガイドライン」を策定し、そのガイドラインを遵守する「責任ある素材生産事業体認定制度」を全国展開している。この認定制度は、スギ生産量31年連続日本の宮崎からスタートした先進的な制度であり、世界的レベルの制度となっている。当法人の取組みは、日本の森林の保護・育成・管理、山の保水力強化による自然災害防止につながるもので、非常に貢献度の高い事業である。

地方創生部門

有限会社 サンクリーン南九商事

代表取締役 吉永 定晴 宮崎市加江田3808

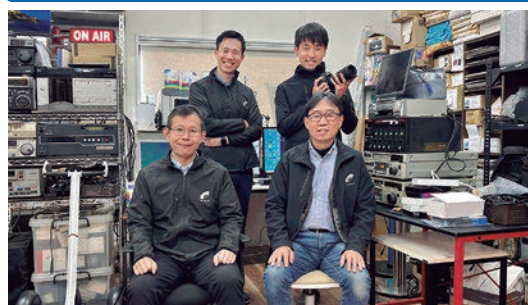
事業内容 匠による、ぬいぐるみ及び着ぐるみ
クリーニング事業

当社は全国でも数少ないぬいぐるみと着ぐるみのクリーニング専門業者であり、代表者は、人体に無害な洗剤を使用、ぬいぐるみの繊維1本1本を手洗いで、ペットの尿やタバコ臭まで落とすことのできる匠の技を持っている。くたびれたぬいぐるみには無料で補修・修繕を施し、基本天日干して仕上げた依頼品は風合いが良く、全国で好評を博している。着ぐるみにおいても、全国各地からゆるキャラのクリーニング依頼が多数あり、地方を盛り上げるイベント事業者を陰ながら支える事業である。

地方創生部門

株式会社 よしみカメラ

代表取締役 一木 尚敏 宮崎市霧島2丁目116-14

事業内容 デジタルアーカイブ事業の拡大

当社のデジタルアーカイブ事業は、1998年に宮崎県立美術館の収蔵品を大判カメラを用いて撮影したことに始まる。2021年には、宮崎大学「地域資源情報活用センター」のアーカイブ事業のデータ化に従事し、これまで写真4千点、古文書など約3万点を撮影している。映像・音声・写真・立体物などあらゆる資料保存のニーズにワンストップで対応できるよう、機材の充実・スタッフのスキルアップに努めている。今後も当社の顧客を含め、本県文化の記録保存・活用への貢献が期待される事業である。

ベンチャー企業部門

有限会社 ボールパークドットコム

代表取締役 山内 康信 宮崎市吉村町下敷甲4353-5

事業内容 宮崎県産牛革野球グラブ製造の産業化

当社は、「日本一の称号を持つ県産牛の皮を使用した野球グラブを宮崎で製造したい」との代表者の思いから、2018年に県産牛革100%の野球グラブ委託製造・販売を開始。2019年には自社製造工場を建設し、グラブ職人2名にて製造を開始した。と畜された県産牛の皮は、海外もしくは県外で流通していたが、野球グラブの材料として地産地消することで、県産牛の新たな価値を見出している。プロ野球のキャンプ地として知られる宮崎県での県産牛革を使用した野球グラブ製造は、新たな県内産業として期待される事業である。

地方創生部門

農業生産法人 有限会社 緑の里りょうくん

代表取締役 田中 良一 日南市大字大窪3018

事業内容 純国産グレープフルーツ「月夜実(つくよみ)」
の販路拡大

当社は、先人から受け継いだ豊かな農地や自然環境を後世に受け継いでいくため、今後の温暖化を見据えた新たな柑橘として、2010年から国産グレープフルーツの栽培を行っている。2019年には、地域の柑橘農家10名と手を組み、農業団体「りょうくんとその仲間たち」を設立し、グレープフルーツを始めとした柑橘を栽培。団体内で栽培ノウハウを共有し、当社が販売を一元化することで生産量や取引先の増加につながっている。すでにグレープフルーツの生産量は年間約35tと国内トップクラスであり、日南地域を代表する新たな柑橘として期待される事業である。

学術研究部門

宮崎県食品開発センター 応用微生物部

代表 特別研究員兼副部長 山本 英樹 宮崎市佐土原町東上那珂16500-2

事業内容 ヒスタミンを低減する新規醤油乳酸菌の開発

当部は海外市場を見据えた県内醤油業界のため、2013年からアレルギー様食中毒の原因となるヒスタミンの低減に関する研究を行い、2018年にヒスタミンを低減する新規醤油乳酸菌MSO204株を開発、2022年に特許を取得している。醤油業界の発展に向けて海外市場は重要であり、この乳酸菌の開発は醤油業界にとっては海外市場開拓への道が広がったことを意味し、非常に貢献度の高い研究である。すでに、この乳酸菌を使用している企業もあり、今後、県内醤油業界のさらなる発展が期待される研究である。

地方創生部門

株式会社 クリエイト

代表取締役 久家 栄二 東臼杵郡門川町須賀崎4丁目39番地3

事業内容 地方の特産を活かすためのICT
サービスの展開

当社は、肉用牛農家向けの牛個体管理システムや道の駅および産地直売所向けの業務支援システムなどを開発・販売・運用サポートを事業とする地元のIT企業である。牛個体管理システムのユーザーには、過去の全国和牛能力共進会において内閣総理大臣賞を受賞した和牛農家もある。また、道の駅や産地直売所においては、ラベル発行機とPOSシステムを融合させたシステムなどを開発。誰でも使える操作性を考慮し事務の効率化や人手不足解消を支援してきた。今後も農業関連事業者に限らず、様々な県内産業へのICTを活用した支援が期待される事業である。

学術研究部門

宮崎大学 農学部 応用生物科学科

准教授 仲西 友紀 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

事業内容 フィタン酸高含有牛肉の生産に関する研究

仲西准教授は、牛肉などの畜産物に含まれるフィタン酸に着目した研究を行っている。フィタン酸は分岐鎖構造を持つ特殊な脂肪酸で、ヒトに対する健康増進作用が期待されており、同氏はアレルギー疾患や糖尿病に対する有効性の実証に日々邁進している。同氏の掲げる最終目標はフィタン酸を高含有する畜産物を生産することである。一般的に動物性脂肪は健康面でのマイナスイメージが強いが、それを払拭するような畜産物の生産を目指している。本県畜産物の消費拡大につながる成果が期待される研究である。

地方創生部門

横山果樹園

代表 横山 洋一 宮崎市富吉

事業内容 国産アボカドへの挑戦

当果樹園は2013年、先代の父よりマンゴー事業を引き継ぎ、2015年より新規事業として施設アボカドの栽培を開始した。世界には1,000品種以上あるとされるアボカドの中から、宮崎の気候や日本人の味覚に合う品種を厳選し栽培しており、収穫した果実は「ひなたプリンセス」と命名し、県内外へブランディングを行い多様な販売チャネルの開拓に取り組んでいる。栽培するアボカドが広く認知され、沢山の方々に食べてもらえることを目標に、安定栽培の確立に向け日々切磋琢磨している。国産アボカドの栽培は、次世代を担う県産品を生み出すものとして期待される事業である。

学術研究部門

宮崎大学 農学部 海洋生物環境学科

助教 宮西 弘 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

事業内容 キャビア生産サイクルの短縮化

宮西助教は自身が開発した方法を用い、チョウザメの成長を促進し、キャビア生産の短縮化を研究している。通常、チョウザメが成長し、キャビアを得るには5～10年以上を要するが、宮西助教の方法を用いれば、キャビアを得るのに1～2年短縮が図られる。この手法に必要なのは「塩」だけであり、低コストかつ既存の設備環境でも実施可能な方法である。生産コストを削減し、環境負荷も軽減できるこの研究は、本県産キャビアの品質を損ねることなく、生産効率を高めることが期待でき、地域産業活性化に寄与する研究である。